

きょうかいさついか
強化警察 壱課本部

かみしば
上志波 巡查長の失踪から
一ヶ月

ハッ

『何だこの捜査資料はっ!!
コレだけオトナの男が揃って
ゴロツキ共の巣穴一つも
あぶり出せなかったのか!?
フザケるなっ!あと遅い!!』

強化警察 壱課

さ
ディアナ・沙羅・ドーベルマン

警視

『這ってでも
捜し回ろうという
気概は無いのかっ
だらしの無い』

『全く…我々壱課が
アレだけの恥を
かかされたんだぞ』

「まあまあ沙羅ちゃん
今は労働時間の
問題とかもあるし…
優しくしてあげて?」

『そうして甘やかすから
今の強化壱課が
貧弱になったのだ
うちま
内間室長』

強化警察 壱課
うちま おお
内間 大利
警視正

室長
警視正 内間 大利

バキィ

『カルテルなんぞ
私がK9にいた頃に
根絶やしにして
やれば良かったんだ』

『そもそも私が
現場に出れば
今頃奴ら全員
血祭りに
挙げていると
言うものを…』

「ハハハ…
それはもう昔の話だよ
沙羅ちゃん
強化警にも色々
事情があるんだよ」

「ggg」

「ハハハ…
形式的にも私は君の
相棒なんだがね…」

『済まない内間室長
緊急招集がかかった
いつも通り単独で
動かせて貰うぞ』

「カッ」

「カッ」

今の志課は甘すぎる…

安全な強化剤の取り扱い
勤務時間 パワハラ問題

そんなものにかまけて
いては奴らカルテルに
太刀打ち出来る訳がない

カルテルを潰すために
私は手段を選ばない

例え非合法
だったとしても…

「ハッ」

「ハッ」

こうしてカルテル側の人間に
秘密裏に接触し懐深く潜り込み！

バしない内に
潜入調査を進めるくらいの
気概が無ければならない♡

『以上が！我々強化警察が
お前たちカルテルについて
掴んでいる情報だ！』

『私の部下たちが必死になって
集めた内容だ出来は悪いが！
何か貴様の役に立てばいいのだが！』

待て！潜入調査？
警察内部の情報を
カルテル関係者に
喋ってしまったって
良かったのか？

それもこんな場所
こんな格好で！
私の目的は何だった？

「成程警察も
おバカさんでは
ないようですねw」

セーッ



「まあこの程度では我々の
拠点を潰すことなど夢のまた
夢でしょうが…W
調べが甘すぎますよW」

ムワァァァ

強化剤カルテル幹部B

強化剤によりフェロモン機能を強化。
自身のフェロモンを自在に操ることで
任意の女性を魅了し、疑似的な
催○、洗○状態にする事が出来る。

『うう…ウチの無能な部下が…
調べが足りず情けないばかりだ
ゆっ…赦してやってくれ…』

「無能なのは前からですよW
それに貴方の協力のお陰で
カルテルも随分動きやすくて
助かっていますよ♡」

「よく出来たね♡沙羅♡」

そうだっ♡
コレで良いんだ♡

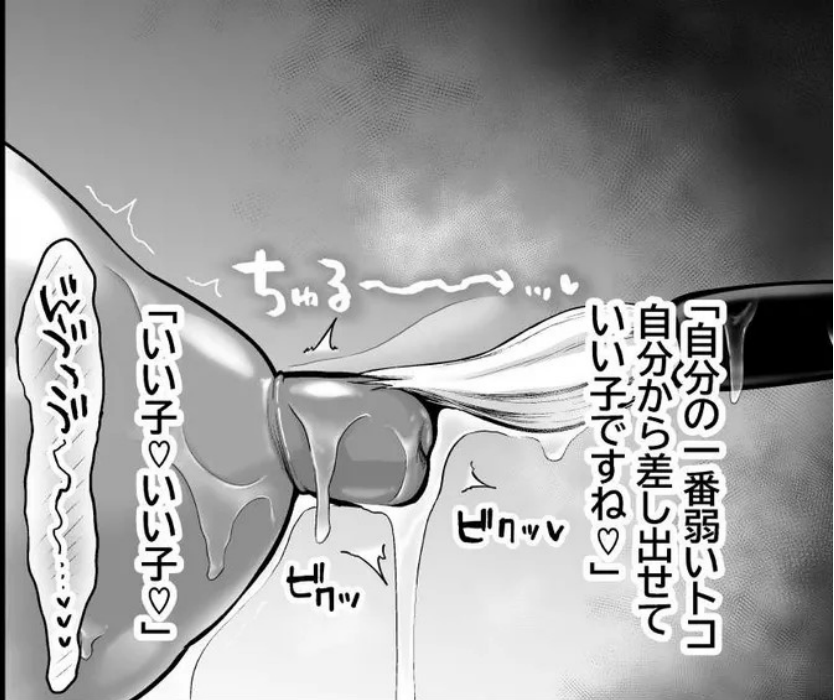
私はコイツの役に立てるように
動いていれば良いんだ♡
そうすれば…♡

『うう…♡
頼むう♡今日も
私の乳首にい♡
ご褒美くれっ…♡』

「ふふふWご褒美欲しい子は
どうするんでしたか？」
情報と引き換えに
ご褒美を貰えるんだ♡♡



私はつい最近まで
知らなかった...



「自分の一番弱いト」
自分から差し出せて
いい子ですね♡」

「いい子♡いい子♡」



カルテルを
壊滅させるため...
隅々まで鍛え上げた
自分の肉体の先っぽに

こんなに
情けなくて弱い
雌の部分が
残ってたなんて♡

まっまっまっまっまっ

「は♡い♡まだ乳首
勝手に負けないよ?
我慢出来て偉い偉い♡」

「乳首負ける時は」

沙羅へのご褒美

仲間を裏切り、情報を横流しして来たら、
ご褒美に乳首に高純度の強化剤を塗布してもらえる。
幹部Bのフェロモンにより、脳が強制的に【従順な雌モード】に
切り替わっているため、乳首は強烈な性快楽を生み出す為の
突起へと強化。報酬系と強く結びつき、中毒状態となる。



「そっそっ
自分で自分の乳首
いじって負けるんだよ？
偉いね♡」

コイツだけは♡
情けなく負けちゃっても
褒めてくれる♡



「オスちゃんぽに
媚びながらですよ？
何度も練習させたから
上手に出来るよね？」

ほっ♡
おおおお♡♡♡
このにおい来たあ♡
無意識で乳首コネコネ
してしまっ♡♡♡



負けたい♡負けたい♡
コイツの匂い嗅ぎながら
乳首で負けたい♡♡♡

もっとコイツの役に立って
褒めて貰いたい♡♡♡
乳首負けろ♡まけろ♡まけろ♡

オスちゃん♡

ゴッ♡

わ か

7/7

[illegible]

このチンポ嗅ぎながら
乳首負けるの
癖になろう♡♡

トキ

トオオオ...

これ以上弱いトコ
増やされちゃったら――

「ほらおいで♡上手だったから今日はも〜と情けない雌にしてあげますよ?」

これ以上はダメだ：
今日は乳首にご褒美
貰うだけって決めて来たんだ

ゴ

イキぐせ
負け癖の付いた
ただの雌に
されてしまぅー♡♡

す

あ

「上からの指示で
マンコ穴だけ
使えないのは
残念ですが……
その分このケツ穴も……」

Σελ. 10

ヒナ

「フー」

ハチ

バチュン

「ふふふw
ごつい筋肉の割に
メスの部分は柔らかくて
抱き心地も良いですね♡
沙羅は♡」



ダメだ♥
負けたくなくても
この男に
好き放題されると…

「このだらしなく育ったデカ乳首もっ♡」

ほじ

ほじ

ほじく



カラダが勝手に
悦んでしまう♡

$$H_{\nu}$$

三

「ほら沙羅♡
ご褒美貰った雑魚メスは何で言うんでしたか？」

「うう♡今日もお…♡雑魚のカラダにご褒美くれてえ…感謝するう…♡これからもお…言う事聞くかりやあ♡」

「いい子にするから♡私のお…♡沙羅の雑魚乳首とお♡ケツまんこの面倒をお…見てやってくれえ♡♡」

「私は間違っていないんだ…♡だってこんなに気持ちいいコト…我慢する方がどうかしているのだから♡」

「それから？次回まで…や…つ…は…何でしたか？復唱しなさい」

「うお…♡次回までに♡我ら強化警察のお♡人員や施設の内部資料もお♡集めてきて…♡詳細に報告…♡ぐうぐう♡♡」

「途中でやめないよ？復唱を続けなさい」

「おおお♡♡するの…するの…一回乳首じよりじより止めろあつ…それ弱いからうぐうおお♡♡また負けりゅぐうぐう♡♡♡」

「だからご褒美貰ったろ…早く本部に帰って内部資料を集めないっ…♡♡」